



【人生の飢え渴きとその解決】

説教者: 鄭南哲牧師

聖書本文: ヨハネの福音書4章3-14節・今週の暗唱聖句: ヨハネの手紙第一4章9~10節

今日の本文はイエス様がスカルというサマリアの町に行かれた時の出来事を紹介されています。

イスラエルの地図をみると、イエス様の当時は3つの地域に分かれていたことが分かります。一番北側がガリラヤ、中間地域がサマリア、一番南側がユダヤです。そして、今日の本文をより深く理解する為には、イスラエルの歴史の背景を知る必要があります。つまり、旧約の時代、あの有名なソロモン王が死んだ後、イスラエルは南北に分裂され、北はイスラエル王国、南はユダ王国に分かれました。しかし、罪により、北イスラエルは B.C. 721 年にアッシリアの侵略により滅ぼされます。当時、古代近東地方を征服したアッシリア帝国は征服された国々が反乱を起こさないように「民族分散政策」を立てて、強行しました。北のイスラエル王国が征服された後、イスラエル人たちを捕虜としてアッシリアとバビロンの地域に散らして生活させ、バビロン、クダ、ヤフ、ハマツ、スバルワイムの多くの人々を北イスラエルの首都だったサマリアに強制的に移住させ、好意にイスラエルの民族と違う民族同士の婚姻（こんいん）関係を結ばせました。一方、捕虜として散らされて住んでいたユダヤ人たちはきびしい環境においてもユダヤ人としての血統（けつとう）と信仰を守ることが出来ましたが、サマリアに残され住んでいた人々はそのように守ることができませんでした。そういうわけで、捕虜の生活から帰って来たユダヤ人たちとイスラエルの南に残っているながら血統と信仰を守り抜いたユダヤ人たちはサマリア人たちを汚れた者として扱い、ユダヤ人の恥だと思い、彼らをさげすみ、一切交流しようともしませんでした。記録によると、サマリア人たちは獣の扱いまでされていたことが分かります。そういうわけで、北にあるガリラヤと南にあるユダヤ王国は交流が出来ますが、イスラエルの真ん中にういたサマリア地域の人々はまったく無視され、孤立された地域だったので、サマリアを通らず、わざと遠回りをして行きました。

ですから、イスラエルは北南に貫通する道路もなく、サマリアを除いた地中海側か、ヨルダン川辺に沿っていく二つの道がエルサレムにつながる英語の文字 H のような道路が発達して来たわけでありです。

確実なのはイエス様がユダヤからガリラヤに向かう時に **4 節**を見ると、わざと“サマリアを通って行かなければならない”と聖書に記されています。

6 節に、ユダヤ、つまりエルサレムを去って**6 時ころつまり、真昼の 12 時**になったころサマリアのスカルという町に着かれました。その町には井戸が一つあって、イエス様はその井戸(いど)の傍(かたわら)に座っていて、弟子たちは食べ物を探しに町に出かけました。ちょうどその時、**7 節**にサマリアスカルの一の女が水を汲みに来たのは実は、特別なことでした。

なぜなら、イスラエルは水が大切なので、井戸一つを町のすべての人々が使っていましたが、あまりにも正午(しょうご)12 時はとても暑いので、普通の町の人々は水を汲みに来るのは朝早くか、日が沈むころだけであつたので、井戸の周囲にはだれもいなかったわけでありです。なので、昼間に水汲みにいくことなんてめったにしなかった行動であることが分かります。

ですから、正午に水を汲みに来たこの一人の女は特別な時に、イエス様と一対一で会うことが出来たのです。イエス様はその女に **7 節**に“水を飲ませてください。”と言われました。**9 節**にその時、その女は“ユダヤ人であるあなたはどうして、サマリアの女である私に水を求めておられるのですか。”と尋ね、それにイエス様は **10 節**に“もしあなたが神様の賜物を知り、またあなたに水を求めている者がだれであるかを知っていたならば、あなたのほうで求めるはず、するとその人はあなたに生ける水を与えるでしょう。”と言われました。後に後半の**25 節、26 節**を見ると、彼女はイエスキリストがどなたであるかを心から信じ、スカルの町の人々にイエスキリストは真の神の御子救い主であることを宣べ伝えることになりました。イエス様とこのサマリアの女との特別出合いで私たちは覚えるべきことがあります。

1. **すでにあなたの全てを知っておられ、神の愛の内に救いの御業を成されるイエスキリスト**

①人が知る前に、すでにすべてを知っておられ、先に訪ねて来られるイエスキリスト

弟子たちはイエス様がサマリアに行かなければならないと言われたとき、その理由についてはまったく知りませんでした！しかし、イエス様はその女に出会うために計画的にサマリアに行かれました。これを言い換えると、サマリアの女はイエス様についてまったく知らなかったのですが、イエス様はすでにその女の人生の全てをよく知っておられ、その女に出会うために意図的に彼女がいるサマリアまで、それとも一緒に住んでいた町の人々も知らずに水を汲みに来る時間に合わせて訪ねて行かれたのです(6-7節)。そして、まったく今日彼女はイエス様と初めて出会ったと思っていたのに、**18 節**には、**彼女しか知らなかったはずのすでに結婚生活が 5 回目もうまく行かず、6 回目のまだ正式に結婚せず、同居している人がいる事さえ、すでにご存じでありました！**

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！しかし、これはだれの話ですか。実は、これはまさしく私とみなさんの人生の話でもあるのではないのでしょうか。

エペソ人への手紙1章4-6節にこう書かれています。「すなわち神は、世界の基(もと)が据(す)えられる前から、この方(イエスキリスト)にあって私たちを選び、御前で聖なる、傷のない者にしようとされたのです。5神は、みこころの良しとするところに従って、私たちをイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあならじめ定めておられました。6それは、神がその愛する方にあって私たちに与えて下さった恵みの栄光が、ほめたたえられるためです。」

サマリアの女はただ水を汲みに来てたまたま偶然イエス様に出会ったと思ったかも知れませんが、決して偶然ではなく、実は神様がこの世を創造される前から、神の愛を持ってその女を選び、神の子として救うことを定めておられた尊い人生でした。決して一人ぼっちではなく、実は彼女の人生はすでに、神の御手の中にあったわけでありました！

信じて救われる前の人たちを聖書は“失われた羊”だと例えました。神様は自らご自分の定められた子供たちを取り戻そうと、すべての人々を探し出す救おうとされるご計画をもっておられます。ですから、イエス様がその女に会うために、ユダヤ人たちが行かないサマリアのスカルという町までに行かれ、井戸で待っておられたように、実は、我らのところにもそのように先にイエスキリストが訪ねて来られたのではありませんか。我らが先に神を知り、信じたのではなく、実は、イエスキリストが環境は人を用いて、イエスキリストと出会い、知り、信じて救われるようになったのは、先に神が我らを愛され、我らのために、先に救いのご計画の中、すべてを備え、我らのところに来て下さったのではありませんか。

イエス様の当時はサマリアの女にイエス様が直接尋ねたのですが、今日、我々にはイエス様が直接来られるのではなくすでにイエス様を信じる者を通して訪ねてくださったケースが多いかと思われま

す。結局、サマリアの女も始めは、イエス様が救い主であることを知らなかったのですが、のちになって分かりました。このように今日ここに来られた方々も、今はよく分からないかも知れませんが、教会に通っているうちに、イエスキリストの御言葉を聞いているうちに、神様こそがさきに私を訪ねてくださったことが分かってくると信じます。しかし、ある人々は神様が自分にこれほど訪ねることを拒み、どれだけ訪ねても教会に来ません。しかし、いつかはかならず教会に来れるようになります。なぜなら、神様はご自分の民がよそ道に逸(そ)らさないようにほっておかないからです。

②すでに人生の飢え渴きを知っておられ、満たし、解決して下さるイエスキリスト

彼女はイエスに言った。15節に「主よ。私が渴くことのないように、ここに汲みに来なくてもよいように、その水を私に下さい。」と求めます。すると、突然、イエス様は彼女に、自分の夫を呼んで連れて来るように言われます。16節に「イエスは彼女に言われた。「行って、あなたの夫をここに呼んで来なさい。」したら、彼女は自分の夫がないと答えます。

イエスキリストはすでに彼女の夫婦関係、家庭生活に深い痛みと飢え渴きを知っておられました。

17-18節「彼女は答えた。「私には夫がいません。」イエスは言われた。「自分には夫がない、と言うのは、そのとおりです。18あなたには夫が五人いましたが、今一緒にいるのは夫ではないのですから。あなたは本当のことを言いました。」

実は、そのサマリアの女の今までの人生の深い事情と理由は分かりませんが、今までの人生の道のりが普通ではなかったことを予想出来るでしょう。5回も結婚し夫が五人もいましたが、また今は六人目の人と同居(どうきょ)し住んでいる状況であることをすでにイエスキリストは知っておられました。

このサマリアスカルの町の人々でさえ、そんな女に対して冷たい厳しい視線を持っていたはずですし、彼女と付き合おうとしなかったようです。ですから、人々の目を避けてだれも来ない時間に水を汲みに来たのに、イエス様はその女に出会うために、わざわざその時間にサマリアスカルの町の井戸にまで行かれたのです。たとえ、そのサマリア女はほかの人々からいくらどんなに非難されるべきところがたくさんあったとしても、イエスキリストは彼女を非難されず、哀れんで愛して下さり、彼女を人生を救おうされていたことが分かります。イエス様は彼女の人生の飢え渴きを知っておられ、わざわざ訪ねていかれてその女と一対一で出会わせて下さるチャンスを作って彼女を待たせておられたことが分かります。

しかし、このサマリアの女はそれを全く知らず、ただひたすらこの地上で真の愛を求めて、平凡な幸せな人生に探し求め、飢え渴きながら、必死に自分なりに努力し、選択して来たのに、結局手に入れることも出来ず、何度も辛い思いと、失敗を経験して繰り返して来た傷だらけの彼女の人生であることが分かります。

結局、彼女は5回もうまく結婚生活は続かず傷だらけの彼女でしたが、また、6回目の今は、結婚もせず、同居している状況の女でした。もう人生の飢え渴きを解決は無理で、どうでも良いような、仕方なく無念で、

無気力で、空しい人生を歩んでいた疲れさまよっていた彼女の人生だったかも知れません。そのうちに神を離れ、神様を知ろうとも、信じることはともかく、むしろ放蕩し、あきらめた生活を送っていたため、サマリアの町の人たちさえも、周りからの冷たい視線を受け、あまり人と関わろうとしなかった孤独で寂しい彼女の人生であることを、彼女しか知らなかった、いや、誰にも知らせたくも、見せたくもなかった心深い痛み、自分の失敗や自分の恥じさえも、イエスキリストはすでにすべてを知っておられました！イエスキリストはこのサマリア女の人生の飢え渇きと嘆きをすべてを知っておられました！イエスキリストは今もこんな我らをも先に見出し、我らの人生の深い飢え渇きも、今までの人生のすべての状況を知っておられるのです。そして、イエスキリストは彼女の人生を愛され、かえりみて下さり、哀れんで人からは決して与えられず、満たされない、永遠に乾くことのない生ける水、永遠の命を与えて下さいました！

14節にイエス様は「しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまで決して渇くことはありません。わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。」

イエスキリストは人生の決して乾くことのない永遠の命のいのちへの水があることと教えつつ、ご自身が救い主メシアキリストであられることを彼女に表します。

25-26節をご覧ください。

「女はイエスに言った。「私は、キリストと呼ばれるメシアが来られることを知っています。その方が来られるとき、一切ののこを私たちに知らせてくださるでしょう。26イエスは言われた。「あなたと話しているこのわたしがそれです。」

そして、ついに彼女は、スカルの井戸でイエスキリストを自分の救い主として、受け入れ信じて、これから永遠に乾くことのない永遠の命への水を頂きます。あまりも自分に与えて下さった神の愛とイエスキリストの恵みを喜んで、すぐ町に行っておの人に真の救い主が来られた良い知らせを宣べ伝える変わった人生の踏み出しが出来ました。ハレルヤ！！

「神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちにいのちを得させて下さいました。それによって神の愛が私たちに示されたのです。私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、宥めのささげ物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」（**第一ヨハネの福音書 4章 9-10節**）

ヨハネの福音書 3章 17節には「神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。」

コリント人への手紙第二 5章 17節にはこう約束されています。

「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」

そのイエスキリストは今も我らを待っていておられ、一人一人の取り除くことが出来ない人生の過去の恥と痛み、絶え続く飢え渇きに、永遠に乾くことのない永遠のいのちへの水を飲ませ、与えて下さっています。

今もそのイエス様は今も我らの為に、我らをどのように待っていておられるのか**ヨハネの黙示録 3章 20節**ではこう書かれています。「見よ。わたしは戸の外に立ってたたいている。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしは、その人のところに入って彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。」このように祈ってみて下さい。

“神様が何度も私を訪ねて来てくださったのに、私は気づかないで、知らないまま、心の戸を開けないで、迎え入れませんでした。今私の心を戸を開けます。イエス様を私の救い主として信じ、永遠に乾くことのないいのちへの水を私も飲ませて下さい。そして、神様の御国に入れる祝福をいただきたいです。イエス様が私の心のうちにお入りになって下さることにより、今までのわたしの古いものを捨て去られ、キリストイエスにうちに新しい人生の歩みがもう一度始まるように私をつくりかえ助けてください。救い主なるイエスキリストの御名によって祈ります！アーメン。”

今日サマリアの女の人生に訪ねて下さった救い主イエスキリストの愛と御恵みがクリスチャンプレイズチャーチの全神の家族の上に豊かに満ち溢れますように！特に本日教会のお年寄りの方々の心と人生に今まであったすべての痛み、悲しみ、飢え渇きに、生ける恵みを、イエスキリストが与えて下さる永遠に乾くことのないいのちの泉が満ち溢れ、感謝と喜びの日々を迎えられますように神の祝福をお祈り申し上げます！
アーメン。